

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	在宅医療における QOL 評価のための評価票の作成
演者名	梅垣宏行 ¹⁾ 、浅井真嗣 ²⁾ 、下島卓弥 ³⁾ 、野村秀樹 ⁴⁾ 前田恵子 ⁶⁾ 、葛谷雅文 ¹⁾
所属	1) 名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療・老年科学 2) 医療法人胡蝶会サンエイクリニック 3) 医療法人 KFCG 勝川ファミリークリニック 4) 医療法人あいち診療会あいち診療所野並 5) 医療法人社団春和会もくれんクリニック

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究	NO.
	4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究	5
8. 質的研究 9. その他研究		

目的

在宅医療においては、患者の Quality of life (QOL) の維持・向上が重要である。QOL の評価法には、悪性腫瘍や認知症など疾患特異的な尺度が多く、在宅医療をうける患者全般の評価に使える評価尺度が存在しない。そのため、我々は、在宅医療をうける患者全般の QOL 評価が可能な尺度を作成することにした。在宅医療をうける患者には、評価用紙の記載などができない方も多く含まれるため、介護者による評価によって、患者本人の QOL 評価が可能かどうかともあわせて検討した。

方法

既存の複数の QOL 評価法の質問項目を参考にし、在宅医療を行っている医師の意見も聴取したうえで、22の質問項目を選んだ。そのうえで、55 名のケアマネージャーに質問項目の重要度に関するアンケート調査を行った。その結果をもとに、上位22項目に絞り込み、さらに再度在宅医療を実施している医師の意見を聴取し項目を見直し、最終的に14項目の QOL 評価票を作成した。作成した QOL 評価票を 67 名の在宅医療をうける患者とその主介護者に実施した。

妥当性の評価のためにクロンバッハ α を求めた。また、患者本人と介護者の評価の間の相関を確認した。また、患者本人と介護者の評価それぞれについて因子分析を行った。

結果

Cronbach の α 係数は、介護者 0.791 患者本人 0.847 と高く、作成した QOL 評価票は妥当であると考えられた。両者の評価の一致率を検討するために κ 係数を算出したが、0.015 と低い数値であったが、Pearson 相関係数は、0.396 ($p=0.001$)と有意な相関を認めた。

因子分析では、患者本人の評価、介護者の評価ともに 3 因子が抽出されたが、各因子の項目は異なった。

考察

在宅医療をうける患者全般の QOL 評価が可能な尺度を作成した。介護者の評価によって患者本人の QOL を評価できるか否かについて、今後さらに検討が必要である。